

わがLOMの  
シニアクラブ

## 島尻JC

[沖縄]

# 地域をみつめ、未来をみつめ ゆめをかたちに、そして現実へ

沖縄県本島、島尻郡の北東側に位置する西原町、与那原町、佐敷町、知念村、大里村、南風原町、玉城村の7町村を拠点として活動してきた当シニアクラブのメンバーも創立22年を経て、2005年で103名を数えるようになりました。

## 島尻

JCシニアクラブのメンバーは、地域の中で、様々な組織の中で、ゆめを描き、それをかたちに、現実にするために活動しているところで

す。そのなかで紹介したいメンバーが、2000年に卒業した坂本清治氏です。

坂本氏は、神奈川県出身で、沖縄の大学に在籍中に沖縄の離島や海外を放浪した際に、日本や世界の未来は、自然環境の保全と過疎地域の文化歴史の保護と、それらを通しての人材育成にあると考えてきた人です。

学習塾の講師兼経営者を生業とし、青年会議所に入会して活動する中で、中学生の環境サミットや、環境フォーラムを開催したり、子供たちに短期の山村留学に参加してもらい、自然体験学習をする中で、自然や地域の文化歴史の重要性を体感してもらおう事業を行ってきました。

その積み重ねの中で、ゆめをかたちにするために、琉球の始祖であるアマミキヨ降臨の地であり、離島特有の自然と独特の文化歴史に富んだ知念村久高島において長期の山村留学を行うこと

を思い立ち、知念村教育委員会、久高島の島民、小中学校の先生方を説得しJC卒業と同時に学習塾を閉め、14人の子供たちを日本全国から集め2000年の4月からスタートさせて2005年の現在に至るまで、久高島留学センターという名称で継続されています。

この久高島留学センターが、小中学校の規模縮小を防ぎ、多少ではあります。経済効果ももたらし、今では、島民の子供たちの数も増え、島の活気も以前とは比べられないほどです。

坂本氏のようにJCを卒業して自身の一生涯のゆめをかたちにし、現実にしたメンバーとともに島尻JCシニアクラブは、前進しています。

ちなみに、当会の最長老で年齢61を数える初代理事長の呉屋博義氏は、昨年からは長年のゆめであった大学生になって10代の若者たちと机を並べているそうです。

日本JCシニア・クラブ

沖縄地区担当世話人 下地浩之



島の漁師と行う追い込み漁の様子(上)、網に入った獲物(下)



久高島留学センターの3期生と4期生

